



[堰 せき]

ダイカストでは湯道の名称としてランナー・ゲートなどの英語を使いますが、砂型では古式豊かに掛け堰(鑄型の上に乗せる注ぎ口), 堰(ゲートのこと)などといいます。堰の語源は「せき止める=塞き止める」場所のことです。語源の話としてはそれでおしまいにしていいのですが、余談として型の語根力の語感の話と同様に、さかのぼって語根セの語感について触れておきましょう。

せせらぎ, 瀬, 浅瀬, 瀬戸, 堰, 関(関所), 咳, 塞く, 塞き止める, 攻める, 責める, 迫る, 急く, せつつく, 競る, せせる, 狭い, せせこましい, 逢瀬, せっかち, 切羽詰まる, 切ない, 世知辛い, . . .

こうしてセのつくコトバを並べてみると、いずれもある種のせめぎあい・切迫のような状況に関わっていることがわかります。想像ですが、谷川の石を越える流れを表わす「せせ」という擬態語・擬音語がむかしあって、そこから「せせらぎ」とか「瀬」などがでてきたのではないかと思います(“瀬をはやみ岩に塞かるる滝川の. . .”)。もちろん正確な語源は分からないといったほうが正しいのですが、いずれにしてもむかしのひとがこれらの一連のコトバに共通の語感を感じていたことはおそらく間違いないところでしょう。

だからどうした, といわれると困りますが、このようにふだん何気なく使っているふつうのコトバを並べてじっと眺めているだけで、いままで気づかなかったコトバの網目・ネットワークが見えてきます。こうして数千年をさかのぼって祖先の気持ちに近づいてみることに私はワクワクするようなロマンを感じるのですが、いかがでしょうか。